

2015 年 GNC モンゴルエコツアー（9 月 2 日～9 月 9 日）報告

1 バヤンチャンドマン村 GNC 苗畑視察

【日時】

2015 年 9 月 3 日 11 : 15～11 : 50

【場所】

トゥブ県バヤンチャンドマン村

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

【参加者】

東京大学大学院修士 1 年生 ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

1) 苗畑づくり

11 時 17 分にバヤンチャンドマンに到着。GNC Mongolia の苗畑を視察する。スタッフのオーグナーさん、サラさんが出迎えてくれる。ジャルガラントでのゲル宿泊用の寝袋を受け取る。全体を視察して説明を受ける。一昨年から育て始めているアカマツの苗木は 2000 本は育っている。来年は出荷できそうだ。あとはイチゴにもチャレンジしている。カブも出来ていた。最大の敵は、ネズミとのこと。囲いを作って対応したいと思っている。またこれまでの井戸では水が足りなくなってきたとのこと。敷地の中央に出来れば新しい井戸を掘りたいとのこと。チャチャルガンやブルーベリーなどの果実がなる作物を作りたいとのこと。11 時 50 分に出発。



バヤンチャンドマン村苗畑で



アカマツの苗畑

2 セレンゲ県 植林地視察

【日時】

2015年9月3日 16:50~17:20 (植林地: 2004年秋万博)

2015年9月4日 11:45~15:20 (植林地: 2015年春→2004年春)

【場所】

セレンゲ県トジンナルス他 (植林地: 2004年秋万博、2015年春、2004年春)

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

【参加者】

東京大学大学院修士1年生 ウンダーク (女性・モンゴル人在日留学生)

1) 森づくり

- ・2004年秋万博 (2005年愛・地球博のプレイベントの際の植林地)

3日16時50分に2004年秋万博の植林地に到着。今年は春先乾燥していて雨が少なく、植樹した苗木の活着については軒並み苦戦している中、意外にもよく育っていた。今年新しく安里さんやトメンナサンさんたちが植えた木もうまく活着していた。安里さんも大満足。万博の植林地ではじめて成果について手ごたえを感じた。17時20分に出発。



意外にも元気に育っている

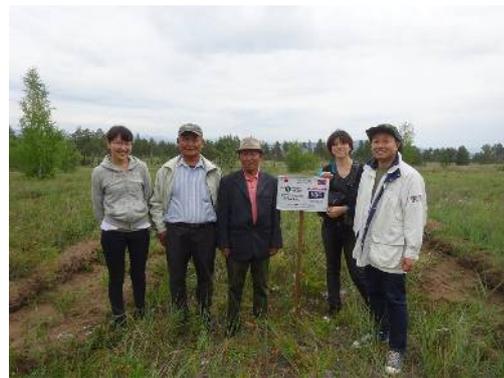


恒例の看板前の記念撮影

- ・2015年春、2004年春の植林地視察

4日11時45分に2015年の植林地に到着する。元・森林・動物センター長のジャムスランさん、植林担当者のトメンナサンさんが同行してくれた。今年は雨が少なく乾燥していたので木の活着については難しい年だった。このところ急に雨が降り出した。季節はずれに緑が増えたり花が咲き乱れたりしている。見ている分には美しい。いつもの年に無い景色だ。しかし、このいつもと違う天候のために、2015年の植林地の活着率は全体的には50

パーセントくらいか。うまくいっている畝もあればほぼ全滅の畝もある。全滅の畝は土が乾燥して硬くなっている。かつ水が流れた後も見られる。3つの看板のうちちゃんとしていたのは1つだけであとの2つは修復が必要。全部で26,5ヘクタール。緑の募金は4ヘクタール1万本。共存の森は13ヘクタール32200本。トライオールの生命の森は残り。敷地全体の周囲を車でまわる。かなり広い。ロシアとの国境が見える場所で一服。素晴らしい景色だ。12時40分過ぎに次に向けて出発。14時20分過ぎに2004年植林地に到着。ますます成長していた。とりわけ間引きをしたところは力強く大人の木になっている印象だった。ジャムスランさんは間引きを勧めた尾上さんのアドバイスは正しかったと繰り返していた。今後も続ける必要がある。全体はいよいよ森といった感じになっている。いつものように定点撮影。集合写真。その後、14時50分過ぎからシートを広げてみんなでランチ。植林地に向かう途中に買ったパンや缶詰、ソーセージ。それにもらったピクルス。トマトジュース。ちょうど良かったし楽しかった。雨もちょうど止んでくれていた。15時20分過ぎ、トメンナサンさんに支払いを終えた後出発。途中花が咲き乱れていて美しい。蚊が多いのにはまいった。



2015年春の植林地（共存の森）



2015 年春の植林地（日モ友好の森）



2004 年春の植林地（セレンゲ県で初）看板も隠れてしまった！



2004年春の植林地は立派な森になりつつあります！



間引きをしたところとしなかったところではこんなに成長が違います！

3 セレンゲ県 第7幼稚園 花の種を贈呈

【日時】

2015年9月4日9:00~10:10

【場所】

セレンゲ県スフバートル市

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

【参加者】

東京大学大学院修士1年生 ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

1) 人づくり

第7幼稚園に9時に到着。3度目の訪問。昨年と同じ園長先生が出迎えてくれる。150人の園児が6クラスに分かれて在籍している。一番下は2歳か3歳。順番に見て回る。一番上のクラスと一緒に記念撮影&花の種を贈呈。2011年にはモンゴル全体の学校の中で緑を大切にする1番の学校に選ばれた。2012年にはセレンゲ県で1番。去年は3番だがそれは不満とのこと。1番2番の学校は園長先生の見立てではそんなに緑も花も無いからということ。園内の遊具や花壇なども先生方が工夫して手作り。先生方が育てたブルーベリーで作ったジャムとパンとスーテツァイをふるまってくれた。出発の際は雨が降っていたが、幼稚園ではあがっていた。それ以降植林地を回る時も時々雨が降ったが、僕らが外に出て視察している時は問題なし。その後は素晴らしく良い天気。僕の晴れ男伝説は健在だった。昨年いただいた手作りのピクルスがおいしかったと絶賛したら、最後にまたプレゼントされた。催促したみたいになってしまったか?! 10時10分に出発。ジャムスランさんとトメンナサンさんが次の植林地視察に同行するために幼稚園に既に迎えに来てくれていた。



花の種贈呈後、園児たちと記念撮影



先生方が精魂こめて育てている



園長先生たちと

4 ジャルガラント村役場 訪問&ミーティング

【日時】

2015年9月5日 14:10~15:00

【場所】

トゥブ県ジャルガラント村

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

【参加者】

東京大学大学院修士1年生 ウンダーク (女性・モンゴル人在日留学生)



ジャルガラント村役場



事務局長ウルジサイハンさんと



ウルジサイハンさんとバトバイルさん



花にあふれた役場 (豚も！)

1) 森づくり

14時13分にジャルガラント村の村役場に到着。植林について担当してくれているバトバイルさん(ひげをはやした人)が出迎えてくれる。事務局長のウルジサイハンさんと面会。GNCの紹介、名刺交換、チラシ渡し、ジャルガランドでの今後の活動と協力体制について話す。記念撮影。7000人くらいの村でバヤンチャンドマンよりだいぶ大きい。かつ緑化について全国で1位の村として表彰された実績がある。住民や役場の人の意識は高そうだ。

まだ思いつきに過ぎないが、GNC は自分たちで何から何までやるのではなく、スーパー
トルの幼稚園やジャルガラント村など自主的にいい活動をしているところを見つけ出し光
を当て、GNC から表彰するという活動が実はとても重要かつ効率的ではないかと考えた。
いいものを真似するという競争心理を刺激するのである。これも人づくりの活動だ。15 時
には出発する。

5 ジャルガラント 植林地視察

【日時】

2015 年 9 月 5 日 15 : 30 ~ 18 : 00 (2014 年春、2015 年春)

【場所】

トゥブ県ジャルガラント村

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

【参加者】

東京大学大学院修士 1 年生 ウンダーク (女性・モンゴル人在日留学生)



ジャルガラントの植林地



バトバヤルさんと



植林地管理を担当して下さっているバタさん一家



2014 年植林



2015 年植林



家畜がネットを破って侵入した痕跡あり。 応急措置で修復済み

15 時半にジャルガラントの植林地近くのバタさんのゲルに到着。バタさん一家は GNC の植林地の管理をしてくれている。(今回は 30 万 tg を支払った。) スーテーツァイとヨーグルトをごちそうしてくれる。荷物も隣の今晚宿泊するゲルに運び込む。その後 15 時 50 分過ぎに、バトバヤルさんも一緒に 2014 年と 2015 年の植林地を視察。2014 年はまあまあうまくいっているが、2015 年については、今年の乾燥が影響して、また 2 年目の苗木ではなく 3 年目の苗木を使ったためか、あまりうまくいっていなかった。また柵が一部壊されていて(修復されていたが)、おそらくそこから家畜が入ってしまったと思われる。家畜の糞が敷地内にたくさん落ちていたから。2014 年は 1,4 ヘクタール 2800 本のアカマツ。

16 時半に出発。今度はジャルガラントの村人が自主的に植林をしているところを視察する。17 時 5 分、山あいの植林地に到着。300 本を 2 日で植えたそうだ。村人 25 人、役人 5 人くらいで、乾燥していたということ 3 年目の苗木を植えたということなどの理由からか、あまりうまく活着していなかった。しかしそういう風に村人が自主的にやることは素晴らしいことだ。お金は村から出ているとのこと。17 時 20 分過ぎに出発。

次に、苗畑もあるということで視察に。17 時 30 分到着。オユンビレグさんという真面目でしっかりした女性が自分の畑で見事にマツの苗畑を成功させていた。松かさを拾ってそこから種を採取し、その種を今年の春にまき、こまめに水やりをしていたら、元気なマツの苗木が育っていたとのこと。

アルタンツェツェグさんと引き合わせて、技術を伝授すればもっといい成果をあげられそうだ。このように、素晴らしい活動に光をあて、人と人をつなぐことも GNC の重要な任務ではないだろうか。というかむしろそういうところに GNC の存在意義があるかもしれない。無理やり植林をしても仕方がない。野菜を育てている温室も見学。きゅうりをたくさんいただいた。18 時に出発。



村人が自主的に植林した場所



自主的に苗畑を作るオユンビレグさん



苗畑

6 トーラ村 GNC Japan モデル農場視察

【日時】

2015年9月8日 10:00～10:20

【場所】

ウランバートル市ハンオール地区トーラ村

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

ツォゴさんが新しく取り組み建設中の日光温室を見学する。また新しく購入したトラクターを見せてもらう。ツォゴさんは、GNC Japan 教育センターを、インキュベーション施設として機能させ、その目玉を日光温室にし、モンゴルの若者を農業を中心に教育し新たな仕事を創出するきっかけにしようとしている。問題はそのための資金調達をどのようにするかである。7日から8日にかけてツォゴさんと宮木はその点について徹夜で語り合った。



日光温室（年に複数回収穫できる）



建設中



建設作業中



新しく入手したトラクター

7 第13回エコ教室の実施

【日時】

2015年9月7日 10:00~13:00

【場所】

ウランバートル市 モンゴル国立大学エコロジー教育センター

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

【参加者】

東京大学大学院修士1年生 ウンダーク（女性・モンゴル人在日留学生）

エコロジー教育センター、18学校、108学校（14歳~16歳、計38名+教員2名）

1) 人づくり

8時20分くらいにツォゴさんが迎えに来る。エコ教室用の飲み物や資材などを大量に車に積み込む。8時25分過ぎに出発。順調で予定より早く8時45分にエコロジー教育センターに到着する。会場となる教室に飲み物や資材を運び込む。ナサンさんが挨拶に来る。上機嫌で元気そうだ。校長先生は授業があるためいないので、エコ教室が終了してからお会いすることになる。教室でチラシやプリントなど、それに調査道具などをセッティングする。早めに到着するとこういうことが余裕をもって出来る。9席くらいのかたまりが5つある。9時50分過ぎにはエコロジー教育センターの生徒（15歳）が集まりだす。10時には、エコロジー教育センターの生徒に続き108学校（モンゲニ）の生徒&引率の先生も集まった。18学校の生徒は渋滞で遅れるとのこと。そこでエコ教室をはじめることにする。

10時10分過ぎ、まずは、僕が挨拶し自己紹介、そしてツォゴさん、ウンダークさん、あんりさんと自己紹介をする。あんりさんは手元資料がそろっているかを確認する。そして、メッセージカードに名前、学校、年齢を記入してもらおう。エコロジー教育センターは、22人の生徒、108学校は、12人の生徒と1人の先生。18学校は4人の生徒と1人の先生。計38人の生徒と2人の先生が参加。10時25分から僕がパワポとチラシを使って、GNCの活動紹介をする。10時50分からあんりさんが、ウンダークさんに通訳をしてもらいながら、水質比較実験をはじめ。説明→水質調査→結果記入→発表→考察という流れ。11時35分から発表がはじまる。最後は感想を書いてもらいお菓子とジュースを配り、その後12時20分過ぎから各校別に記念撮影。12時半に終わる。

その後、エコロジー教育センター内の施設を見学。温室、博物館。13時には教室に戻る。そこでGNCメンバーだけで撮影。そして108学校の地理の若い女性の先生、ツェンデ先生が挨拶に来る。まだ赴任してきたばかりだが、108学校とGNCは長い関係があることを最

近知った。これからも 108 学校といろいろなことをやって欲しい。そんなことを伝えてきた。握手して一緒に写真を撮る。



エコ教室準備



熱心に聞き入る生徒たち



最初の挨拶とスタッフ紹介



小川安里さんの講義



テーブルごとに作業



テーブルごとに作業



各校ごとに結果発表



各校ごとに結果発表



18 学校の生徒たちと



エコロジー教育センターの生徒たちと



108 学校の生徒たちと



センター内見学

8 モンゴル国立大学エコロジー教育センター会合

【日時】

2015年9月7日 13:00~15:50

【場所】

ウランバートル市 モンゴル国立大学エコロジー教育センター

【スタッフ】

GNC Japan 代表 宮木いっぺい

GNC Japan 事務局 小川安里

GNC Japan 教育センター長 ツグトサイハン

13時、校長室に入る。バトツェツェグ校長（女性）は去年と同じ。バトツェツェグ校長は学生時代バザルドルジ先生の教え子で、94年ごろ東大に留学した経験もある。去年はセンター長就任にあたって、ここ10年のGNCの活動報告もしっかりまとめてくれていて、GNCとの関係性をきちんと理解してくれていた。（なお、GNCはこれまでに総計3000万TGの支援をしているということがわかった。）去年は赴任してきたばかりだが、1年やって何をすべきかよりはっきりしたとのこと。とても熱心で、GNCの活動をきわめて高く評価してくれている。今の政権が環境に力を入れていて、エコロジー教育センターに対して文部省からのお墨付きももらい、全国から視察に来るようになったとのこと。ただ、まだどのように発信していったらいいのか、どういう仕組みで運営していったらいいのかかわからない。その先進事例を知りたい、そのために日本に出張し先進事例を見学し取り入れたいとのこと。何とか協力したいという話になる。

1時間半も校長室で話しこんでしまった。ナサンさんも同席していた。実際の担当者はナサンさんだ。14時40分過ぎ、ナサンさんの案内でエコロジー公園を見て回る。15時10分過ぎには校舎に戻り、新しい施設（物理化学実験室、生物実験室など）を見学。テレビの環境教育番組を企画、出演している女の先生も紹介された。博物館のタッチパネルも紹介された。昨年から比べると長足の進歩だ。校長先生のやる気が感じられる。謙虚で向上しようという気持ちがとても強い。一緒にやってゆく価値のある先生だ。

エコロジー教育センターの注目度が今とても高くなっていることはこれまでセンターに大きな足跡を残しているGNCにとっては追い風だ。自然にGNC自身が認知される。校長先生も常に外に向けてGNCのことを話してくれているようだ。ツォゴさんも日本人との付き合い、人とのつながりを重視して積極的つながりを作ろうと考え始めたようで、いろいろな日本人に会うたびにGNCのことを話しているようだ。20年やっているというとみんなとても驚くようだ。外の道路に面したところにも大きくGNCと協力してエコロジー公園を作ったことを説明するモンゴル語と日本語の看板が復活した。これは大きい。エコロジー教育センターを出たのは15時50分過ぎ。



バトツェツェグさん、ナサンさんと



エコロジー公園にて



市民の憩いの場になっている



メインの通りに向けた看板

付録 GNC 教育センター

ウランバートル市の中心から南西に車で40分ほどのところ、ハンオール地区トーラ村に位置するGNCの拠点、GNC教育センターは、農場と宿泊施設から成っている。宿泊する場合は、食材を調達し（買うか収穫するか）自炊する。



GNC 教育センター



食堂・ミーティング室



寝室



シャワー室

今回のツアーメンバー



運転手のツェンゲルさんと宮木代表



ウンダークさんと小川安里さん